

第5学年「てつがく」学習指導案

授業者 久下谷 明

2月22日（金）1階多目的室 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

- 1 単元名 自分を見つめて
- 2 考える価値内容 自己 / 他者
- 3 題材について

これまで、子どもたちの疑問や今の思いをもとにしながら「てつがく」の授業を進めてきた。1学期は問いを立てることを丁寧に行い、『幸せとは?』というテーマで対話を重ねた。2学期前半は、「てつがく」のイメージを共有しながら、『てつがくとは?』について考えた。また、対話後に自分の考えをかく際の「ふり返しシート」にあるふり返りの観点の検討を行い、自分たちでその観点を決めた。そして、2学期後半は、『当たり前とは?』というテーマで、自分たちで決めた探究の方法をもとに授業を進めた。

本単元では、3学期の最初に自分を見つめて考えた目標、「どんな自分でいたい、どんな自分でありたいか」をもとに、そこに書かれた言葉の意味を問うことから“てつがくする”ことを始めたい。例えば、“友達思いでやさしい自分でありたい”や“低学年に優しくしている自分でありたい”、“誰に対してもやさしく、思いやりの気持ちを持ち、・・・”のように、「やさしさ」を目標に書いている子がいる。また、自分たち学年の個性として、「やさしい」を挙げる子も多い。「やさしさ（やさしい）」という言葉はよく使われるが、そもそも『やさしさ』とは何だろうか。この問いは、私自身、事あるごとに自問し、時に悩みながら考えてきた言葉の一つである。

目の前の子どもたちとは、クラス替えがありつつも4年生から一緒に過ごしてきた。成長とともに、当然色々なことがあるが、変わらず素直で心優しい子どもたちである。その子どもたちが、およそ1ヶ月半後には、6年生、最上学年となっていく。これから先、6年生としての行動が求められたり、他者との関係の中で悩み、揺れ動いたりすることが増えるに違いない。相手の望むことをすることがやさしさだろうか。相手のことを思い、相手のために行動することがやさしさだろうか。『『やさしさ』って何だろうか?』と問い、それぞれが思う『やさしさ』の違いを感じ、今の自分や自分たちを見つめながら、対話を通して、皆（教師も子どもも）で考えていければと思う。〈2内容-(1)ア・オ、(2)イ、(3)ウ〉

本時は、学習活動の7時間目にあたる。対話を通して新たな問いが生まれ、問いが変化していくこともある。その問いの変化や子どもたちの気持ちや思いに寄り添いながら、丁寧に対話を進めていきたい。

4 学習指導計画（7時間目／全10時間）

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 問いを共有した後、今の自分の考えをかく…1時間 ・ 対話を通して考える …1時間 ・ 『やさしさ』のイメージや、『やさしさ』を感じる具体的な行動等を集め、冊子にまとめていく…3時間 ・ 作成した冊子の内容を共有する …1時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの活動等から生まれた問いを考える…本時 ・ 対話を通して更に考える …1時間 ・ 『やさしさ』についての今のイメージや考えを冊子にかき加え、冊子を完成させる …1時間 ・ 一連の授業をふり返し、自己評価を行う …1時間 |
|---|--|

5 本時の学習について

(1) 本時のねらい

『やさしさ』って何だろうか?』と問いながら、対話を通して『やさしさ』について考えることができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時をふり返る。	・ 本時では、マイクをコミュニティボールの代わりとする。
2 これまでの対話から生まれた問いについて考える。	・ 聴くことを意識し、速いテンポにならないように対話を進める。 ・ 必要に応じて、以下のことを行う。 言葉の問い返すことにより、その意味を明確化する。 思いや根拠を問う。 / 対話してきた内容の整理や確認を行う。
3 本時をふり返し、更に自分で考える。	・ 1人で考える時間も大切にす。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

『やさしさ』について、対話を通して一人ひとりが粘り強く考えていくことができていたか。